

韓国環境部プレスリリース 2020 年 1 月 27 日付

江原道の野生いのししから ASF ウイルス検出（野生いのしし 116-117 例目）

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1213140&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は江原道（カンウォンド）華川郡（ファチョンゲン）上西面（サンソミョン）広域フェンスの中で発見された野生いのしし死体 2 個体で ASF ウイルスが検出されたと 1 月 27 日明らかにした。

死体は全 1 月 24 日山陽里（サンヨンリ）の山を搜索した環境部搜索チームによって発見された。華川郡（ファチョンゲン）は野生いのしし ASF 標準行動指針により試料を採取して現場消毒と共に死体を処理した。

国立環境科学院は 1 月 27 日死体で ASF ウイルスを確診と結果を関係機関に通知した。これで華川郡（ファチョンゲン）では 19 件の野生いのししの ASF 陽性事例となり、全国的には 117 件になった。

国立環境科学院生物安全研究チーム長は“今回の死体は全て広域フェンスの中で発見されたとし、この地域では感染した死体がさらに出てくる可能性があり、搜索を徹底している”と話した。

以上